

都市再生整備計画

あわらおんせんえきしゅうへんちく
JR芦原温泉駅周辺地区

(第2回変更)

ふくい
福井県 あわら市

令和7年10月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☐
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	☐
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	☐
まちなかウォークアブル推進事業	☒

都市再生整備計画の目標及び計画期間

変更後 様式(1)～②

都道府県名	福井県	市町村名	あわら市	地区名	あわらおんせんまきしほうへん 区 JR芦原温泉駅周辺地区	面積	30.3	ha
計画期間	令和 6 年度 ～ 令和 10 年度	交付期間	令和 6 年度 ～ 令和 10 年度					

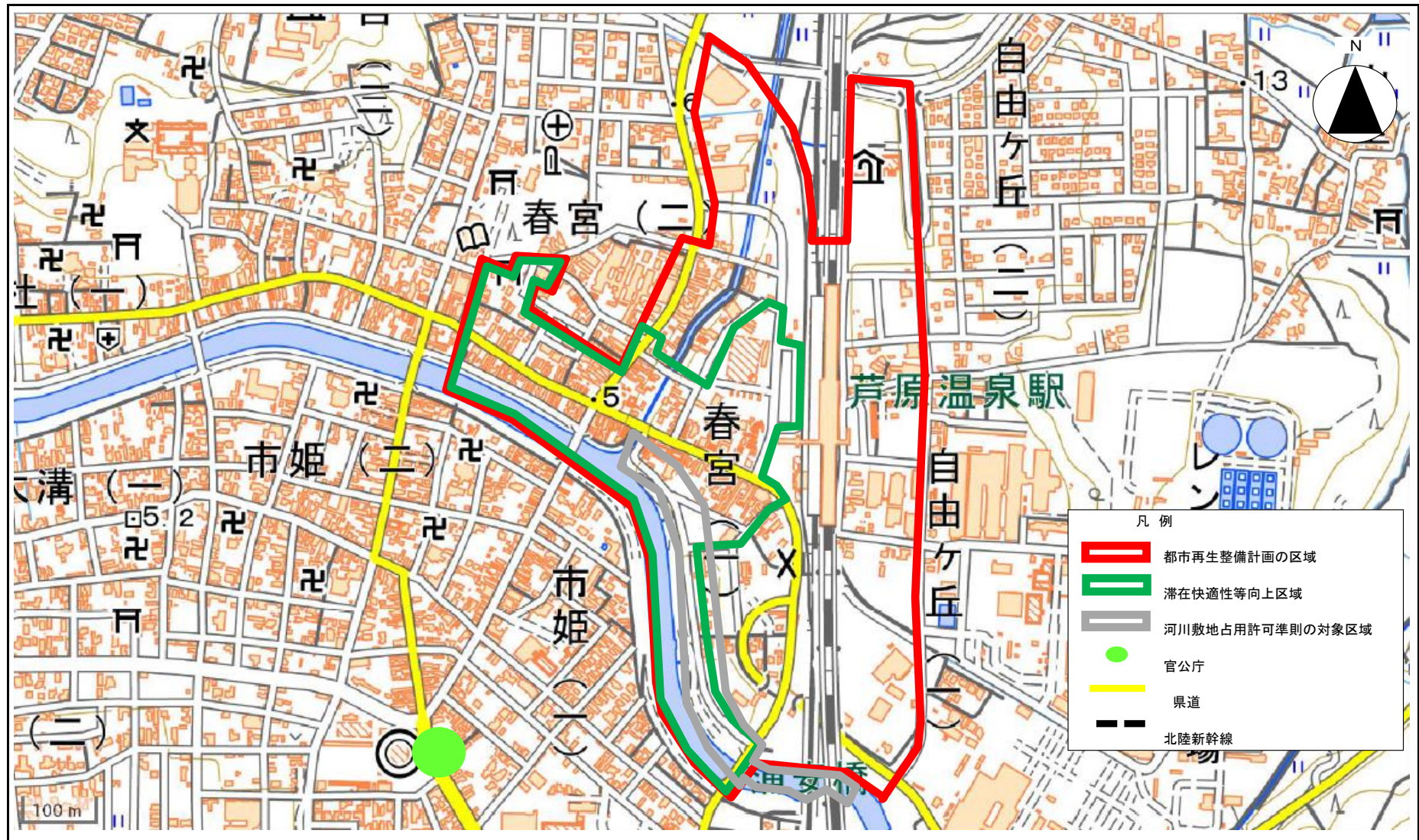
目標 大目標：芦原温泉駅から竹田川および公共施設(金津本陣IKOSSA)までをまち歩き空間として整備し、地域の一体的な賑わいづくりの実現 目標1：歩行者が安心して楽しく歩くことができる歩行空間の創出 目標2：多くの市民が利用できる交流空間の創出 目標3：官民連携による魅力ある周遊空間の創出							
目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 あわら市は福井県の最北端に位置し、平成16年3月に芦原温泉を有する芦原町とJR芦原温泉駅がある金津町の2町合併により誕生した。 本地区の中心に位置する芦原温泉駅が、平成17年度から整備新幹線建設推進高度化等事業による駅部調査の対象となったことを受け、駅周辺整備基本計画に基づき事業を着手している。事業化にあたっては、全体の事業費が多額になることや事業期間が長期に渡ること、また、当駅が在来線の駅に併設されることなどを考慮し、平成19年度から平成30年度までの12年間に渡り、「JR芦原温泉駅周辺地区(1期)」、「JR芦原温泉駅周辺地区(2期)」及び「JR芦原温泉駅周辺地区(3期)」の都市再生整備計画を策定し、金津本陣にぎわい広場や駅東口駐車場等の整備を行った。 さらに、平成28年度には駅周辺まちづくりの将来像(将来デザイン)を市民投票により決定し、将来デザインに込められた理念を踏まえ、駅周辺の機能や仕組みを定める「芦原温泉駅周辺まちづくりプラン」を平成30年7月に策定した。このプランに基づき、交通結節点、魅力情報発信のさらなる機能強化や駅周辺を中心とした賑わい創出を図るため、北陸新幹線現駅併設に対応した整備を行っている。 そのような中、令和4年度にJR芦原温泉駅前周辺整備 西口賑わい施設(愛称:アフレア)がオープンした。この施設は、福井県の北の玄関口にふさわしい賑わい交流拠点として広くアピールし、あわら市、坂井市をはじめとした福井県の魅力をしっかりと発信する拠点となっている。今後、地域の一体的な賑わいづくりをしていくために、芦原温泉駅に下車した人が、駅前周辺を経由し竹田川や公共施設(金津本陣IKOSSA)まで歩いて行きたくなるような仕掛けが求められている。 また、本地区は、過去に宿場町として大いに栄えており、竹田川は鉄を運ぶための航路としても使用されていた歴史がある。現在も当時の面影が残っており、公共施設(金津本陣IKOSSA)には当時についての資料も展示されているため、多くの人に竹田川や公共施設(金津本陣IKOSSA)まで歩いてもらうことで、歴史を知ってもらうきっかけにもなる。 そこで、地域住民や関係団体と十分な意見交換をしながら、周遊したくなる空間を創出するための整備や地域イベントと連携した取り組みを進めていくことで、楽しんで歩くことができる空間の創出を図ってきたい。							
課題 ① 駅周辺部では、空き店舗が増え活力が低下していることや、街なかに観光する場所も少ないことから、駅から街なかへの人の移動が見られない。よって、ウォーカブル推進事業によって、街の魅力を向上し、地域を活性化したい。 ② 人口減少の加速化への対応などこれまでに経験したことのない危機等を乗り越える新たな取組が求められている。							
将来ビジョン(中長期) ①第2次あわら市総合振興計画(平成28年3月策定) ○まちづくりの基本理念：暮らしやすく、幸せを実感できるまち ○幸せを実現するための6つのプラン：①新幹線を迎える、②まちを輝かせる、③人をはぐくむ、④安らぎを守る、⑤力をみなぎらせる、⑥夢をつなぐ ○基本政策の一つに「北陸新幹線に向けたまちづくり」を掲げ、北陸新幹線の整備促進、芦原温泉駅周辺の整備、並行在来線への対応を重点的に取り組むと位置付けている。 ②あわら市都市計画マスタープラン(平成29年3月策定) ○都市の将来像：多彩な自然と温泉情緒が誘いざなう生活感動都市 ○まちづくりの基本戦略の一つに「福井県の北の玄関口にふさわしいJR芦原温泉駅周辺のまちづくり」を掲げ、特色ある美しい景観形成と新たな機能の導入により、活力と魅力あふれる空間を創出すると位置付けている。 ③あわら市立地適正化計画(平成29年3月策定) ○都市の将来像：都市計画マスタープランと同様 ○本地区(広域交流拠点)の誘導方針 ・都市機能：関連計画やプロジェクトとの整合、拠点中心部へのアクセシビリティや回遊性、都市機能の集積状況を勘案して、高齢化社会に対応した市街地環境を整備するため、必要な都市機能を維持・誘導する。 ・居住：用途地域内への誘導を基本とし、新規や住み替えの促進、路線バス、デマンド交通の維持・拡充、空き家の有効活用等を図る。							
一体型滞在快適性等向上事業及びまちなかウォーカブル推進事業の計画 滞在快適性等向上区域の考え方 JR芦原温泉駅から竹田川河川区域および公共施設(金津本陣IKOSSA)までを滞在快適性等向上区域に設定する。具体的に、都市公園(駅前児童公園)を全面リニューアルする。また、公共施設(金津本陣IKOSSA)までの歩行空間を整備する。これらにより、多くの人が交流する拠点を形成し、駅周辺のさらなる賑わい創出を図る。 滞在快適性等向上区域での取組 JR芦原温泉駅と都市公園(駅前児童公園)までの道路を美装化および公共施設(金津本陣IKOSSA)までの歩行空間を整備することで、賑わいや魅力を創出するとともに回遊性の促進を図る。 また、都市公園(駅前児童公園)にトイレや日陰たなを新設整備することで、誰もが利用しやすい場所になり、多くの人が集う空間を創出する。 さらに、竹田川河川区域一帯は、令和3年に河川管理者である福井県から河川敷地占用許可準則に基づく都市・地域再生等利用区域の指定を受け、民間事業者でもイベントやオープンカフェ、キャンプ場などの営利活動を常時行うことが可能となった。竹田川河川区域内にある竹田川河川公園の指定管理者である「金津まちなか創成会」が中心となって、カヤック体験などのイベントを実施し、市民・観光客双方が滞留できる場の創出が図られる予定である。							
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
				基準年度		目標年度	
歩行者交通量	人／8時間	滞在快適性等向上区域内での歩行者数	官民一体となった賑わいある歩行者空間の創出	14人/12時間(休日)		30人/8時間(休日)	
まちなかウォーカブル事業を利用した駅周辺整備に関する市民の満足度	%	北陸新幹線芦原温泉駅開業に伴い駅周辺のまちづくりについて、にぎわい・快適性はあるか？(アンケート)	回遊性の向上、魅力ある滞留空間・交流拠点の創出によって市民の満足度が増加する。	47.9%		65.0%	
滞在快適性等向上区域内で開催されるイベント回数の増加	回／年	駅前児童公園及び竹田川河川公園でのイベント回数	多くの市民が利用する交流空間でのイベントが増加されることで、JR芦原温泉駅周辺地区の賑わいが創出される。	0回／年(休日)		5回／年(休日)	

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
【居心地が良く歩きたくなる空間づくり】 ・歩行者の利便性・まちの回遊性の向上 ・都市公園も含めたエリアの一体的な快適生の創出		【基幹事業】（高質空間形成施設）市道103号線改良事業 【基幹事業】（高質空間形成施設）市道駅前・新町線改良事業 【基幹事業】（道路）市道十日・嫁威線整備事業 【基幹事業】（公園）都市公園駅前児童公園整備事業
その他		
【竹田川周遊整備構想(素案)の概要】 ◆目的：JR芦原温泉駅周辺地区において、竹田川や都市公園、市道の既存資源を活かし、地域住民をはじめ市民や来訪者まで、誰もが、日常的に集い、周遊したくなる魅力的な拠点（公園）と周遊軸（芦原温泉駅⇄竹田川）の整備をする。 そのようにして、新たな街の魅力を創造することで、地域の活性化（賑わい）に繋げていくことが目的である。 ・現状、竹田川沿いがキャンプやカヌーなどのイベントを開催する場として活用されているが、竹田川に至るまでのアクセスや竹田川周辺の整備が出来ていないため、回遊したくなるような空間整備が必要である。 ・主要施策：JR芦原温泉駅から拠点と位置図ける都市公園を経由して、竹田川までの歩行者空間の形成及び周遊軸の創出 ・具体策：JR芦原温泉駅と都市公園を結ぶ市道103号線を美装化し、都市公園までのアプローチとする。また、都市公園を多世代が利用できる公園に整備し、竹田川まで周遊できる拠点とすることで、都市公園としての機能と魅力を増大させる。 【その他官民協働の取り組み事例】 特になし 【重点的に取り組むテーマ】 特になし		

JR芦原温泉駅周辺地区(福井県あわら市)

面積 30.3(12.8) ha

区域 あわら市春宮1～2丁目の各一部、自由ヶ丘1～2丁目の各一部、市姫1～2丁目の各一部



JR芦原温泉駅周辺地区(福井県あわら市) 整備方針概要図(まちなかウォーカブル推進事業)

目標	大目標: 芦原温泉駅から竹田川および公共施設(金津本陣IKOSSA)までをまち歩き空間として整備し、地域の一体的な賑わいづくりの実現 目標1: 歩行者が安心して楽しく歩くことができる歩行空間の創出 目標2: 多くの市民が利用できる交流空間の創出 目標3: 官民連携による魅力ある周遊空間の創出	代表的な指標	歩行者交通量 (人/8時間)	14人/12時間(休日) (R5年度) → 30人/8時間(休日) (R10年度)
			まちなかウォーカブル事業を利用した駅周辺整備に関する市民の満足度 (%)	0.479 (R4年度) → 0.65 (R10年度)
			滞在快適性等向上区域内で開催されるイベント回数の増加 (回/年)	0回/年(休日) (R4年度) → 5回/年(休日) (R10年度)

